

チーム花園シーズンI



運動会の練習も佳境に入り、あとは天気の手配をするだけになってきました。子どもたちは最高のパフォーマンスを見せてくれると思います。花園小の子どもたちはよく頑張ります。毎日子どもたちの姿に元気をもらっています。

体験不足かな?と思うこと!

最近、子どもたちを見て感じるのですが、「すぐにキレル子が増えた」「転んだとき手をつけずに顔から転倒する子が増えた」「多少の苦しさで我慢できない子が増えた」などです。現代っ子の特徴?といってもいいかもしれません。要因について私なりに考えると、まず子どもたちの生活環境の変化です。それは、昔は時間さえあれば砂場や空き地で子どもたち同士でいろいろな遊びを考えてやっていたね。その中で危険な遊びもし、危険回避能力も身につけてきたし、友だちとのトラブルで人間関係も学びました。今はそんな経験が少ないですね。

次に子育ての考え方の変化です。必要な体験だと分かっても少しでも危険と大人が判断すればその体験はさせないほうがいい。子どものリスクを最大限に減らして、大人の手で子どもを守り、子どもに任せて子ども自身に考えさせることをしてない気がします。学校でも、木登りさせて落ちてけがすることを考えると木登りもさせられません。

人間は生まれて、寝返りし、しばらくしてハイハイして、その後高バイして、つかまり立ちして、歩けるようになるものです。「その一連の動作をきちんとたどらずに来た子がいろいろな問題行動を起こすと考えられる。」と聞いたことがあります。



お子様が生まれてしばらくの間(3歳くらいまで時期)の子育てってほんとに大事なんですよ。

今後学校教育の中で「ハイハイ」の時間が設定される時代がくるかも!

学力が高い子どもに育てるために保護者がやるべきこと

全国学力・学習状況調査によれば下記に挙げた子どもは保護者の経済力に関係なく学力が高いそうです。

- 1 授業以外の勉強時間が確保されている子ども(宿題や自主学習)
- 2 読書をしたり、読み聞かせをしてもらったりする子ども
- 3 基本的な生活習慣が身につけている子ども(早ね、早起き、朝ごはんなど)
- 4 保護者の教育への関心が高い子ども(学校行事への参加や協力)

安心で安定した家庭が子どもたちにとっては生活の基盤です。そして、学校行事や地域行事等には、保護者として積極的に参加することで、他の保護者とつながり、お子様の外での様子がよく分かり、結果的に学力がアップするのだらうと思います。子どもは親の言うとは聞かなくても、親のすることは真似します。

できることから共にはじめましょう。



過保護すぎる親たちの意識を変えた一人の小学生の作文が心に響く …ネットニュースから

ある学校の授業参観で「家族への想い」をテーマにした作文の発表があったそうです。

そこである子が「信じあうこと」というタイトルの作文を読みました。

「私は、家族が大好きです。家族も、私のことが大好きです。でも、たまに、とても悲しい気持ちになることがあります。」

「私の家族は、いきすぎだと思うほど、私のことを心配します。この前、私は○子ちゃんとケンカをしました。私は、○子ちゃんにいやなことをさせられました。」

でも、私も○子ちゃんにいやなことをしたと思い、仲直りをしたいと考えていました。」

「その時に、お母さんは私に、あなたはわるくないと言いました。○子ちゃんがわるいんだから、あやまらなくていいのよ、と言いました。」

「とてもびっくりしました。なんで、私もわるいのに、私はあやまらなくていいのかなって、そのときに思いました。」

「お母さんは、もしかしたら、私のことを信じていないのかもしれない、と思いました。」

お母さんは、『自分の子供』ということを知っているだけで、『自分の子供だから』という理由だけで、私はわるくないと言っているんじゃないかな、と思いました。」

「そのとき、とても悲しくなりました。」

お母さんは、私という人間のことを信じてくれているのかな、と心配になったのです。」

「私はお母さんの子供だけど、私というひとりの人間でもあります。」

その私という人間を、ちゃんと見てくれて、知ろうとしてくれて、信じてくれているのかなって、思う時があります。」

「最近、テレビで、モンスターペアレントという、子供のためにいっぱい怒る人が増えているという話をみました。それを見て、この作文を書こうと思いました。」

きっとそういう人が増えているのは、きっと子供自身を信じるんじゃなくて、『自分が育てた子供』という、育てたこと自体を信じているんじゃないかなって、思いました。」

似ているようで、すごく違うことのように感じるのは、私だけではないのではないのでしょうか。」

「私は、家族が大好きです。だからこそ、家族には、もっともっと、私のことを信じてほしいと思います。信じあうことができたなら、きっともっと仲良く、もっと笑顔いっぱいと一緒にいれるんじゃないかなって思います。」

「私も、もっとしっかりして、勉強もたくさんがんばります。だから、これからも、私のことをたくさん信じてください。私は、かならず家族みんなの自慢の娘になります。」



この子の感性はすばらしいと思います。読んで感動しました。みなさんはどんなことを感じられましたか？

子どもを伸ばす長所発見のポイント

vol.2 加点法

10問テストで、「3つまちがえたね」より「7問できたね」という褒め言葉のほうが励みになり、失敗も成功へのステップになりやすくなりますね。

花園小学校ホームページ→<http://www.city.uto.kumamoto.jp/school/hanazono-es/>
検索ワード→宇土市立花園小学校 ※ほぼ毎日更新していますよ。